

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2017年4月調査結果-

調査要領

- 調査期間 2017年4月7日～28日
- 調査対象 200社
- 回答企業 109社
- 回収率 54.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの企業割合) - (減少・悪化などの企業割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の4月の状況を見ると業況DIは、前月より4.24ポイント回復の▲12.8

2014年4月以来37ヶ月連続マイナス水準で推移している。

業種別では、建設業、卸売業、小売業の3業種において回復した。

※向こう3か月の先行き見通し業況DIは▲2.7と当月に比べ10.1ポイント回復を見込んでいる。

業種別でみると、建設業、卸売業、小売業、サービス業で回復が見込まれている。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2016年 11月	12月	2017年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 2017年5月～7月
業況	▲12.9	▲11.8	▲17.4	▲10.6	▲17.0	▲12.8	▲2.7
売上	▲6.0	▲15.7	▲14.3	▲13.5	▲9.0	▲0.9	10.1
採算	▲11.8	▲9.8	▲8.2	▲10.6	▲19.0	▲7.3	0.0
仕入単価	▲21.8	▲25.5	▲29.6	▲26.9	▲32.0	▲32.1	▲42.2
従業員	24.7	25.5	30.6	24.1	24.0	23.0	29.3
資金繰り	▲7.0	▲6.8	▲7.2	▲7.7	▲10.0	▲10.1	▲7.3

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2016年 11月	12月	2017年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 2017年5月～7月
建設	▲13.6	0.0	▲9.1	▲4.0	▲8.7	0.0	22.7
製造	▲7.4	0.0	0.0	4.1	7.7	7.7	3.8
卸売	▲16.7	▲36.8	▲15.0	▲33.3	▲35.0	▲29.2	▲12.5
小売	▲25.0	▲43.7	▲50.0	▲17.6	▲35.7	▲11.8	▲5.9
サービス	▲5.5	11.7	▲25.0	▲5.9	▲29.4	▲35.0	▲25.0

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・新卒者は予定どおり採用でき、賃金についてはベースアップを実施（総合工事） ・仕事の増加による従業員不足と資材の上昇による採算割れ（建築） ・今後の発注予定分については、技術者や下請業者の確保及び資・機材価格動向を睨みながらの対応が必要と考える。（総合工事） ・国の言う「働き方改革」に取り組んでおり、担当者・若手職員頭を悩ませている。（設備その他）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・在庫コントロールと為替要因により採算が好転したが、特に為替に関しては先行き不透明（家具木材） ・前期と同水準推移。今後についても前期と同程度で推移するものと思われる。（家具木材） ・資材（紙）の仕入値上昇を通告されている。（印刷出版） ・人材を確保（新規・雇用継続）するためには、賃金の引上げをせざるを得ず、実施する。（金属窯業鉄工） ・仕入（副資材）は、人件費の高騰を理由に値上げが相次ぐ（金属窯業鉄工） ・従来の受注時期のパターンがここ2～3年変化。先行きの見通しが非常に掴みづらくなっている。（金属窯業鉄工） ・仕入価格の上昇（家具木材）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・売上・粗利とも昨年同月比 100%。台風による復興特需があり少し数字のアップに繋がった。今後の動きはあまり感じられず現状で推移しそう。（機械鋼材） ・今月も昨年度と同等の業況（機械鋼材） ・2017年度の事業量の確保のため、入札価格を下げなければならない。（機械鋼材） ・仕入原材料の上昇はあるものの、販売単価へ転嫁させているため総合判断としては前年並み（食料品） ・灯油の仕入価格は需要期が終わったことから大きな変動はなうものと思われる。（その他） ・従業員の高齢化が深刻（繊維） ・報道で景気回復とあるが全く肌で感じない底冷え感がある。発表どおりであれば個人消費上昇となるがそれも見えないのが実情。仕入価格は円・ドルの関係と輸出国の値上げ関税、増税等で少しずつ上昇傾向。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員が不足。募集するも集まらず販売に支障が生じている。（その他） ・仕入価格上昇傾向で販売価格に転嫁が急務。人員が不足気味で賃金水準をアップせざるを得ない。（その他） ・機械等の入れ替え需要あり。（食料品） ・今月もフリー客が少ない状況。店舗顧客中心で売上を作っていくしかない。当たり前の作業になるが電話やメール等にて接客・販売（衣料品）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・年間で一番観光客が少なく、稼働率も低迷。昨年最低賃金が上がったことにより全体的にコスト上昇し減収減益予測。5月以降は順調に推移しそう。（ホテル） ・人材確保（理美容・クリーニング） ・食品の値上げが続いているが、単価は上げられない。利益減が避けられない。（飲食） ・新卒者（高校・短大）の採用に苦戦。給与、休日等雇用環境競争が行き過ぎている。（整備） ・仕事の幅を広げるため設備投資促進税制度を活用して新たな機器導入（その他） ・サービス業辛すぎ（飲食） ・売上に海外旅行客が多く占めるようになってきている。インシデント一つで売上が大きく変わるが、社としてコントロールできない。（ホテル） ・個人消費の減少（整備） ・旭川・上川管内の観光客激減で前年比 10%減。宗谷・留萌管内も売上減。人手不足が深刻（理美容・クリーニング） ・社員の産休・新入社員育成（理美容・クリーニング）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI30.8 ポイント回復、採算 DI12.9 ポイント回復、仕入単価 DI11.7 ポイント回復、資金 DI8.9 ポイント回復、従業員 DI14.6 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 8.7 ポイント回復となった。業種別では、総合工事 1 ポイント、設備その他 14 ポイント、建築業 33 ポイント回復となった。仕事量増加による従業員不足と資材上昇による採算割れとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI 横ばい、採算 DI 横ばい、仕入単価 DI15.4 ポイント悪化、資金 DI11.6 ポイント悪化、従業員 DI3.8 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は横ばいとなった。業種別では、食料品 67 ポイント悪化、家具木材横ばい、印刷出版 25 ポイント、金属窯業鉄工 15 ポイント回復となった。従来の受注時期のパターンがここ 2～3 年の間に変化し先行き見通しが非常につかみづらくなってきているとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI1.6 ポイント回復、採算 DI22.5 ポイント回復、仕入単価 DI16.7 ポイント悪化、資金 DI0.8 ポイント悪化、従業員 DI6.6 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 5.8 ポイント回復となった。業種別では、その他 11 ポイント悪化、繊維・衣料品等 17 ポイント、食料品 13 ポイント、機械鋼材 13 ポイント回復となった。報道では景気回復とあるが、全く肌で感じない底冷え感がある。発表どおりであれば個人消費上昇となるがそれも見えないとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI27.4 ポイント回復、採算 DI28.6 ポイント回復、仕入単価 DI2.0 ポイント悪化、資金 DI15.6 ポイント回復、従業員 DI18.5 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 23.9 ポイント回復となった。業種別では、食料品 20 ポイント悪化、衣料品横ばい、その他 5 ポイント、自動車 50 ポイント回復となった。従業員が不足している。募集をかけても応募がないとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI12.3 ポイント悪化、採算 DI3.6 ポイント回復、仕入単価 DI27.1 ポイント回復、資金 DI2.4 ポイント悪化、従業員 DI27.9 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 5.6 ポイント悪化となった。</p> <p>業種別では、理美容クリーニング 33 ポイント、飲食 17 ポイント回復、ホテル、その他、整備業横ばい、運送 50 ポイント悪化となった。旭川・上川管内の観光客激減で前年比 10% 減。宗谷・留萌管内も売上減。人手不足が深刻で苦勞しているという声も寄せられている。</p>